

視点1

(1) 主体的な学びを実現する指導方法の工夫

「なぜ?」「解決したい!」が湧く授業づくり

①教材提示や課題設定の工夫

◎見通しをもつ

- ①子どもたち一人一人にとって、解決する必然性が生まれる課題を設定する。
- ②指導事項と単元全体及び一単位時間のつながりを意識した課題を設定する。等

②学びを実感できる振り返り(2020年度の重点)

振り返りは、児童が自らの学習を客観視し、次の学びにつなげていく重要な能力であると考え。児童主体の学習では何をどのように学ぶのかを自ら発見する必要があるため、振り返りはますます重要になってくると考える。

- A 自分の学習した結果を分析すること
 - B 自分の学習プロセスについて分析すること
 - C 自分の感情を分析すること
 - D 自分の変化を分析すること
- 「主体的であったか、達成感をもてたか」という感情面の振り返りは今後の学習に向かっていくために大変重要である。

(2) 対話的な学びを実現する指導方法の工夫

「伝えたい!」「聞きたい!」が湧く授業づくり

①対話する目的の明確化

- 子どもが自力で言葉に向き合うことができるように、何を目的にして対話するのかをはっきりと伝える指示を



②対話しやすい形態や場

- 自分の考えをまとめる方法を工夫し、対話に参加しやすい環境を整える。
- 接続語や問い返しの言葉を意識して使わせる。
- 対話の目的に合わせた言葉遣いを意識させる。

(3) 深い学びを実現する指導方法の工夫

「わかった!」「できた!」が実感できる授業づくり

①板書方法の工夫

- 本時とつながりのある既習事項を板書する。
- 児童の授業の初めと終わりの考えを板書する。
- 黒板を協働の学習活動の場とする



研究構造図

【教育目標】

- 知 考える子……〈子どものめあて〉進んで学習
 - みんなで学び合い、楽しみながら、進んで学習に取り組む児童を育てる
- 徳 やさしい子…〈子どものめあて〉優しい心
 - 相手の気持ちを思いやり、きまりを守り、正しく判断できる児童を育てる
- 体 やりぬく子…〈子どものめあて〉元気に挨拶
 - 心身共に健康で、目標に向かって、最後まで粘り強くがんばる児童を育てる

【児童の実態】

- 読解力に課題があり、題意に沿った答えを出したり、要旨を捉えたりする力が弱い傾向にある。
- 基本的な語彙力が不足し、自分の思いや考えを書いてまとめる力が弱い傾向にある。

【本年度の重点目標】

- 今を磨き、子どもの明日を拓くチーム留小
- 「確かな学力」を磨く
- 「豊かな心」を磨く
- 「健やかな体」を磨く

【研究主題】

「学びは楽しい!」を積み上げ、自信をはぐくむ子どもの育成
 ～「読むこと」の指導を通じた国語の力を高める授業改善～

【研究仮説】

- 「読むこと」領域の学習において、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善を行うことで、質の高い学びが実現し、学ぶ楽しさを感じ、自信をもって学習に取り組む子どもが育つであろう。

【視点1】

主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を行うための指導方法の工夫

- (1) 主体的な学びを実現する指導方法の工夫
 - ①教材提示や課題設定の工夫
 - ②学びを実感できる振り返り
- (2) 対話的な学びを実現する指導方法の工夫
 - ①対話する目的の明確化
 - ②対話しやすい形態や場
- (3) 深い学びを実現する指導方法の工夫
 - ①板書方法の工夫
 - ②評価規準と方法の具体化

【視点2】

児童が楽しいと感じられる単元開発・教材研究・環境整備

- (1) 本校の児童に合った授業展開の開発
 - ①指導計画の工夫
 - ・読解力を高める指導方法の工夫
 - ・言語活動の工夫
 - ②言語活動の工夫
- (2) 国語に対する学習意欲が高まるような言語環境の整備
 - ・●●コーナーの設置
 - ・★★コンクールの実施
 - ・▲▲タイムの実施

【めざす子ども像】

- ◎みんなで学び合い、楽しみながら、進んで学習に取り組む子
- (低学年)順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を高め、自分の思いや考えをもつことができる子。
- (中学年)筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を高め、自分の思いや考えをまとめることができる子。
- (高学年)筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を高め、自分の思いや考えを広げることができる子。
- 国語科の単元テスト(読むこと)において、8割以上の得点を確実に取ることができる。

【確かな学力のための基盤】

- 各学年で身に付けたい力を定着させる指導 □家庭学習の手引きをもとにした指導
- 学用品に関する指導 □「留小っ子の学び方」の定着 □学びの土台づくり
- 読書指導

視点2

(1) 本校の児童に合った授業展開の開発(2020年度の重点)

いろいろなタイプの授業にチャレンジしよう

①指導計画の工夫

留小スタンダード 1単位時間の授業の基本的な進め方

	学習活動(青色:児童の活動 水色:具体的内容 緑色:教師の支援)	
導入	<p>1 学習計画を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆単元の終末で行う言語活動を確認する。 ◆前時の学習内容を確認する。 ◆本時の学習に対する興味や関心を高める。 <p>本時の学習に対する意欲を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●前時までの学習を想起する。 ●想起した内容を発表する。 <p>興味や関心を高める工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前時までの掲示物の活用 ○映像資料、ICTの活用 ○児童の発言内容の活用 など 	
	<p>2 課題を確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆本時で取り組む課題を確認する。 <p>※本時の言語活動とその目的が分かるよう、学習課題を設定する。</p> <p>(例) 志の観点とするために、選んだ理由を考えながら印象的な場面を表現しよう。</p> <p>必要能力 言語活動の目的 本時の言語活動</p> <p>課題を意識付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの言葉から課題を設定する。 ○個人個人や全体で読ませる。 ○ワークシートやノートに書かせる。 など 	
展開	<p>3 文章の精査・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆課題解決のために文章を読み、根拠となる語句などを見つける。 ※今まで学習したことや本時の学習場面から思考する。 <p>個人で学ぶ方法を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教科書にサイドラインを引かせる。 ●ノートやワークシートに書き出す。 など <p>【根拠を基に考える】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○叙述に即して考えることが基本 ・主人公の行動や会話、教材によっては情景描写にも着目させる。 例「私は、教科書の○○ページの～から～と考えました。そのわけは、～だからです。」 	
	<p>4 情報の整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆見つけた語句などを整理して、説明できるように整える。 <p>必要に応じて、型を与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●説明に使用する部分に印を付ける。 ●説明内容をノートに書く。 など <p>必要に応じて、学びをそらせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○サイドライン箇所の全体確認 ○書き出した内容のミニ交流 ○学習場面やあらすじの確認 ○軌道修正のための課題確認 など 	
	<p>5 対話による問題の解決【ペア交流、トリオ交流、グループ交流等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆書き出した語句などを示しながら自分の考えを伝え、対話を通して「答え」を見つける。 <p>必要に応じて、教師や児童のモデリングを示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●右記の目的を達成するための交流をする。 ●自分の考えを修正する場合もあり。 ●交流後、全体交流に向けての準備をする。 ●根拠を明確にしながら話すことを意識する。 <p>対話の前に伝える</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 何のために話し合うのか ※順序付け、比較、分類、関連付け 2 どんな方法で話し合うのか ※ペア・トリオ・グループなど 3 話し合ったことをどうするか ※発表内容をノートに書く。ホワイトボードにまとめる ●● 4 時間を知らせる ※●●分まで 	
	<p>6 言葉による整理【全体交流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆対話を通して得た「答え」や深まった「答え」を全体で整理する。 <p>ゆきぶる。 ※「どうして」 そうなのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●対話によって問題解決を図った内容について全体に伝え、学習課題の解決を図る。 	
終末	<p>7 学習をまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ※言語活動を通してどのようなことが分かったのか、振り返ることができるようにする。 (例)・場面や登場人物の気持ちが大きく変わるところ。 ・会話から気持ちが一番伝わるころ。 <p>まとめた内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人個人や全体で読ませる。 ○ワークシートやノートに書かせる。 ○課題とまとめをつなげながら確認する。 	
	<p>8 学習活動の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学習の方法や手順を振り返り、自己評価する。 <p>評価の視点を明確に与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「◎△」等の記号で振り返る。 ●ワークシートやノートに、学習の振り返りを記述する。 <p>【学習の振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「◎△」等の記号で振り返る。 ○「本時で理解したこと」「どうして理解することができたのか」等をノートに書く。 ※発達段階に応じて 	

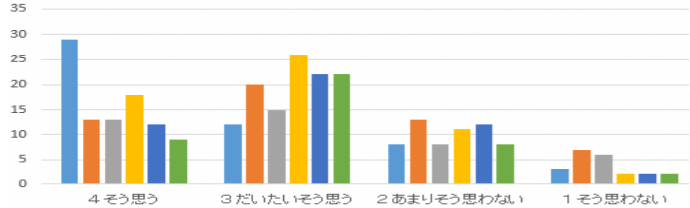
(2) 国語に対する学習意欲が高まるような言語環境の整備(2020年度の重点)

子どもたちがワクワクするような言語環境をつくろう

日常的に実践を積み重ねていくことにより子どもたちの国語科に対する興味や関心が高まり、「読むこと」の学習を進める上で基盤となる語彙力を増やすことができるのではないかと考える。

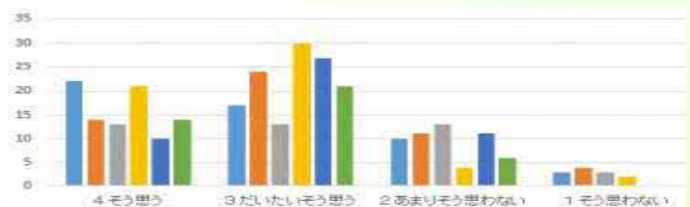
- スピーチ ・日記 ・漢字熟語づくり ・漢字しりとり ・漢字ビンゴ
- 辞典の活用 ・漢字ミニテスト ・言葉集め ・～作文 ・川柳、俳句 等

■児童アンケートから



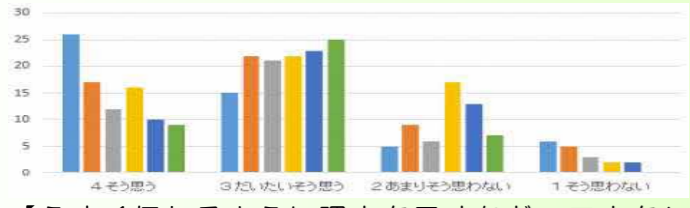
【国語の勉強が好きだ】

- 4 そう思う・・・・・・・・・・32.08%
- 3 だいたいそう思う・・・・・・・・39.93%
- 2 あまりそう思わない・・・・・・・・20.48%
- 1 そう思わない・・・・・・・・7.51%



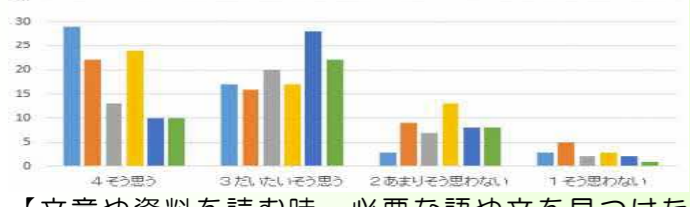
【目的に応じて自分の考えを話したり書いたりしている】

- 4 そう思う・・・・・・・・・・32.08%
- 3 だいたいそう思う・・・・・・・・45.05%
- 2 あまりそう思わない・・・・・・・・18.77%
- 1 そう思わない・・・・・・・・4.10%



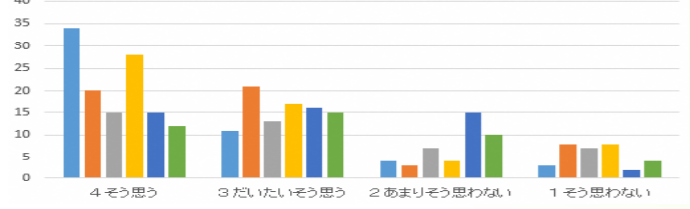
【うまく伝えるように理由を示すなどの工夫をしている】

- 4 そう思う・・・・・・・・・・30.72%
- 3 だいたいそう思う・・・・・・・・43.69%
- 2 あまりそう思わない・・・・・・・・19.45%
- 1 そう思わない・・・・・・・・6.14%



【文章や資料を読む時、必要な語や文を見つけたり、文章や段落同士の関係を考えたりしながら読んでいます】

- 4 そう思う・・・・・・・・・・36.99%
- 3 だいたいそう思う・・・・・・・・41.10%
- 2 あまりそう思わない・・・・・・・・16.44%
- 1 そう思わない・・・・・・・・5.48%



【漢字が好きだ】

- 4 そう思う・・・・・・・・・・42.47%
- 3 だいたいそう思う・・・・・・・・31.85%
- 2 あまりそう思わない・・・・・・・・14.73%
- 1 そう思わない・・・・・・・・10.96%

■研究副主題

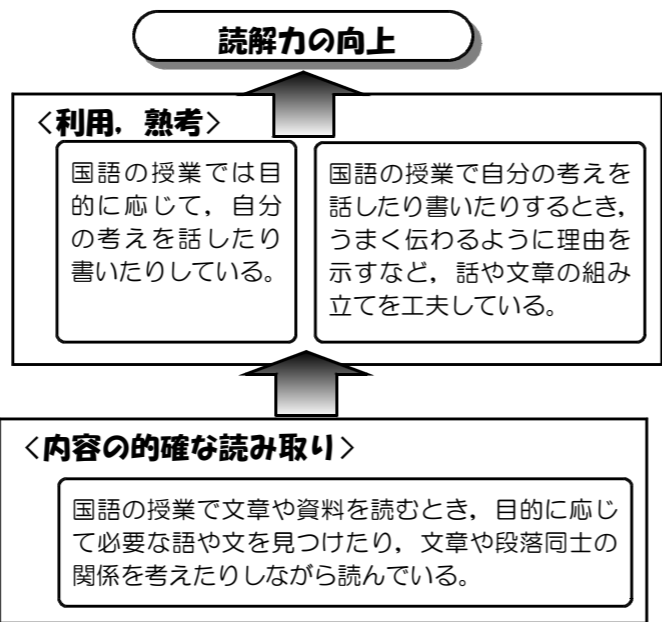
「読むこと」の指導を通じた
国語の力を高める授業改善

私たちは、毎日のように言葉を使っている。相手がいれば、話したり聞いたりする機会がある。「手紙を書きたいと思えば、文字を書く。」「読みたい本があれば、本を読む。」と、このように、毎日のように言葉に触れる機会がある。国語はどの教科の基盤ともなり得る教科であるため、小学校において、どの教科よりも国語に配当する時間が多くなっている。

では、どんな力を最も伸ばしたいのか。小学校学習指導要領解説国語編では、「国語科の指導内容は、系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、資質・能力の定着を図ることを基本」と書かれている。様々な力を総合的に伸ばしながら「国語の力」を高めていくことがもっともではあるが、特に本校で弱い部分とされている読解力の伸長に重点を置き、研究を進めていきたいと考える。

【読解力のおさえ】

読解力は、以前は「文章の内容を理解する力」とおさえていたが、近年は定義が変わり、「**目的や場面などに応じて的確に内容を読み取り、その内容を利用、熟考する能力**」とされている。これは、文章の内容が分かっても、それを活用できなければ、本当の読解力とは言えないためである。留萌小学校としても、同様のおさえを進めていきたいと考える。



令和2年度 開校140周年
教育実践発表会研究要覧



☆学校の教育目標

- 【知】 考える子
- 【徳】 やさしい子
- 【体】 やりぬく子

☆重点目標

今を磨き、子どもの明日を拓く
チーム留小
「確かな学力」を磨く
「豊かな心」を磨く
「健やかな体」を磨く

☆キャッチフレーズ

笑顔が弾ける留萌小学校

実践発表会の開催にあたって

今年度、本校は開校140周年を迎え、地域の皆様とともに留萌小学校の歴史を振り返り、輝かしい未来に向けて新たな歩をスタートする年となりました。一つの節目を迎えた今年、多くの皆様に留萌小学校の子どもたちの様子をご覧いただき、様々な視点でのご意見を賜りたいと思います。

皆様からのご指導を糧に、教職員一同、明日からの教育活動に日々生かしていきたいと考えています。そして、これからも日々の授業実践を積み重ねることで、子どもたちの「笑顔が弾ける留萌小学校」となるよう努力してまいります。

最後に、お忙しい中、本日の講演をお引き受けいただいた京都女子大学教授 水戸部 修治 様、そして、本日ご参加いただいた皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

令和 2年11月13日
留萌小学校長 前田 雄

留萌市立留萌小学校

■研究主題

「学びは楽しい！」を積み上げ、
自信をはぐくむ子どもの育成

【全国的な傾向から】

全国学力・学習状況調査等の結果によると、小学校では、文における主語を捉えることや文の構成を理解したり表現の工夫を捉えたりすること、目的に応じて文章を要約したり複数の情報を関連付けて理解を深めたりすることなどに課題があることが明らかになっている。中学校では、伝えたい内容や自分の考えについて根拠を明確にして書いたり話したりすることや、複数の資料から適切な情報を得てそれらを比較したり関連付けたりすること、文章を読んで根拠の明確さや論理の展開、表現の仕方等について評価することなどに課題があることが明らかになっている。

学習状況調査において、各教科等の指導のねらいを明確にした上で言語活動を適切に位置付けた学校の割合は、90%程度となっており、言語活動の充実を踏まえた授業改善が図られている。しかし、依然として教材への依存度が高いとの指摘もあり、更なる授業改善が求められる。

【児童の実態から】

平成30年度や令和元年度の教研式標準学力検査の結果や児童アンケートの結果などから、本校児童の国語科における学習状況は、以下に示すとおりである。

平成30年度 ※学年は当時の学年で表記。得点率等は、「2018年4月実施」のもの

国語	学年	2年(現4)	3年(現5)	4年(現6)	5年
得点率		79.7	76.4	62.7	73.3
全国		79.8	77.1	64.9	70.8
全国比		100	99	97	104
関心・意欲		88	111	92	95
話す・聞く		101	102	99	106
書く		99	101	88	102
読む		100	90	102	104
言語		98	101	97	101

- 全校的に国語の「書く・読む」のところが全国に比べて低いところがあり、今後の課題である。
- 全体として全国比100%に到達していない領域が多い。

令和元年度 ※学年は当時の学年で表記。得点率等は、「2019年4月実施」のもの ※()は、全国平均を示す。

国語	学年	2年(現3)	3年(現4)	4年(現5)	5年(現6)	6年
得点率		75.2	76.1	68.4	64.1	70.4
全国		71.8	76.8	65.8	66.2	64.6
全国比		105	99	104	97	109
関心・意欲		54.5 (66.2)	59.1 (61.6)	70.6 (70.7)	53.5 (66.6)	68.5 (70.3)
話す・聞く		66.7 (62.8)	77.7 (80.9)	78.6 (79.2)	72.1 (74.5)	86.4 (81.5)
書く		75.2 (73.1)	74.1 (74.5)	61.6 (59.2)	62.6 (64.3)	64.8 (61.5)
読む		65.2 (58.7)	60.7 (62.2)	62.9 (56.7)	58.2 (59.7)	64.6 (54.5)
言語		93.2 (92.5)	92.0 (89.6)	70.0 (68.2)	63.0 (66.4)	65.4 (60.7)

- 「話す・聞く、書く、読む」の部分に課題が多く見られる。
- 全校的に国語に対する「関心・意欲」が低い。

まずは、およそ25%の国語を苦手としている児童を20%未満にすることを目標として、「国語の学習を楽しみと思うこと」ができるようにし、その上で、読解力を高めていくことが必要だと考える。